

TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

東北大学附属図書館概要



使 命

東北大学附属図書館は、本学における学術情報流通の中核として情報基盤の重要な部分を担い、研究者・学生及び職員が必要とする情報資源の収集、創成、組織化並びに提供を通じて本学における教育・研究活動を支援する。

さらに、国内外並びに地域社会における学術研究の進展及び文化の振興に寄与する。(ミッション声明より)

表 紙 の 資 料

原稿「道草」…漱石晩年の作品『道草』の反古(ほご)原稿。全102回連載の内、当館が所蔵する草稿15枚は、第33回と第39回分の一部である。漱石の伝記的な要素が強い作品と評され、家族や親族との不和や葛藤が描かれる。飛び散ったインクの跡は、原稿に向かう漱石の姿を種々に想像させる。

1907

- 1907年6月
東北帝国大学設置
- 1911年6月
図書館設置
- 1915年12月
医科分館(現・医学分館)
設置
- 1916年6月
官制改正により図書館を附属図
書館に改称
- 1925年12月
附属図書館本屋(現・史料館)竣工



東北大学附属図書館(大正末～昭和初期)

- 1947年9月
農学部図書室開設
- 1949年5月
学制改革により新制・東北大学
に改組
- 1957年4月
富沢分校 分館設置
医科分館を
医学部分館に改称
- 1958年9月
富沢分校分館が移転し、
川内分校分館に改称



医学分館(昭和初期)

1960

- 1963年7月
記念資料室(現・史料館)設置
- 1964年4月
教養部分館(旧・川内分校分館)
設置
- 1965年7月
国連寄託図書館に指定
- 1966年1月
調査研究室設置
- 1967年8月
工学部中央図書室設置



本館(1972年竣工)

1970

- 1970年1月
OECD寄託図書館に指定
- 1972年4月
教養部分館廃止、本館に統合
医学部分館を医学分館に改称
- 1973年11月
本館全面開館
- 1974年4月
農学部分館(現・農学分館)設置
- 1978年4月
工学分館設置
農学部分館を農学分館に改称



農学分館(1979年竣工)

1980

- 1982年4月
北青葉山分館設置
- 1983年9月
EC資料センター(現・EUi)
に指定
- 1987年9月
図書館情報処理
ネットワークシステム
全面稼働



工学分館(1980年竣工)

1990

- 1990年5月
本館2号館開館



本館2号館(1989年竣工)

2000

- 2000年11月
記念資料室廃止
(史料館に転換)
- 2007年3月
東北大学機関リポジトリ
TOUR公開
- 2009年2月
本館耐震改修工事終了



青葉山コモンズ(2016年竣工)

2010

- 2011年3月
東日本大震災により被災
- 2011年6月
附属図書館創立100周年
- 2014年10月
本館リニューアル開館
- 2016年12月
農学分館
(雨宮キャンパス)閉館



医学分館(2020年改修)

2020

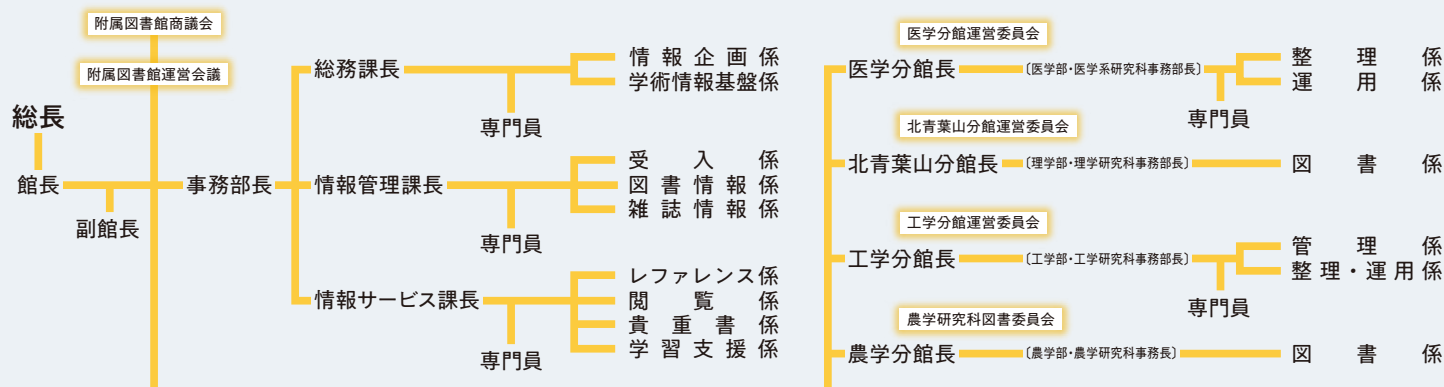
- 2017年4月
農学分館
(青葉山コモンズ内)
開館
- 2021年5月
医学分館リニューアル
開館
- 2023年11月
北青葉山分館リニューアル
開館



北青葉山分館(2023年改修)

組織

Organization



(2023年4月1日現在)

2023年度の主な活動

ACTIVITIES

北青葉山分館リニューアルオープン(2023.11.1)



▲大きな窓から四季折々の景観を楽しめるエントランスホール。



▲個人学習席、グループで利用できるラーニングcommons、発表会やセミナーもできるイベントスペースなど、様々な空間が揃っています。

企画展を4年ぶりに対面開催！テーマは、「伊達騒動」



▲(上) 展示風景。(下) 本企画展監修者の籠橋俊光教授によるギャラリートーク。多くの方に来場いただきました。

▲対面のほか、オンライン展示も実施。
<https://sites.google.com/tohoku.ac.jp/date-dispute/>

オープンアクセス推進中



▲研究成果発信力強化及び若手研究者支援を実施しています。

コロナ5類移行により、サービスが本格再開



▲2023年5月の5類感染症移行後、各図書館に賑わいが戻ってきました。

自己点検・評価と外部評価を実施



▲2017年以来的、総点検を行いました。

蔵書数

420万冊

国立大学図書館で第4位

電子ジャーナル購読数

1万4千種

研究に欠かせない学術情報として
充実を図っています

デジタルアーカイブ公開数

138万コマ

貴重資料等のデジタル公開を進めています

※貴重資料等のデジタルアーカイブ公開画像数
（「歴史的典籍NW事業(国文研)」での公開も含む）

機関リポジトリ収録数

8万2千件

本学の研究成果を公開しています

震災ライブラリー

所蔵数

8千点

オンライン版
登録件数

5千点

東日本大震災の関連資料を
収集・保存・公開しています

SNSフォロワー数 （国内の大学図書館の中で）

X (旧Twitter)

第2位

Instagram

第2位

利用者に有益な情報を
タイムリーに発信しています

※2024年3月15日現在。当館調べ

所蔵コレクション

COLLECTION

国宝「史記 孝文本紀第十」延久5年(1073)



▶「史記 孝文本紀第十」延久5年(1073)

「史記」は、司馬遷によって編纂された古代の歴史書。本書は、文章博士を輩出した大江家に伝来した祖本を大江家国が書写し、訓点を施したもの。本巻は宋刊本に先行する特徴を残す。大江家の学風が窺われ、年代が明記された「史記」としては我国で最古のもの。

国宝「類聚国史 卷第二十五」平安時代末期



▶「類聚国史 卷第二十五」平安時代末期

「類聚国史」は、菅原道真が編纂にあたり892年に完成した歴史書。本来存在する205巻のうち現存するのは62巻であり、その他の史書を補う貴重な記述を含む。当館が所蔵する「巻第二十五」は平安末期の書写で最古の写本の一つとされる。

狩野文庫

秋田県大館出身の教育者・思想家である狩野亨吉(かのこうきち)の収集したコレクション。和漢書を中心に10万冊を超える。「古典の百科全書」「江戸学の宝庫」とも称され、国宝2点もこの文庫に含まれる。



▶絵本狂歌山満多山(やまたやま)

漱石文庫

夏目漱石の旧蔵書約3千冊から成るコレクション。漱石自身の書き込みがある図書が多数存在し、この他、日記、ノート、原稿・草稿など、本文庫から数多く全集へ収録される。漱石研究における貴重な基礎資料となっている。



▶「渡航日記」

チベット大蔵經

多田等観が、ダライ・ラマ13世の信頼を受け、チベットでの勉強を終えた際下賜されたもの。大蔵經のなかでも本学所蔵のデルゲ版は、校訂の精確さと印刷の鮮明さを備え、その目録は「東北目録」として世界的に参照される。



▶「西藏大蔵經」(デルゲ版)

秋田家史料

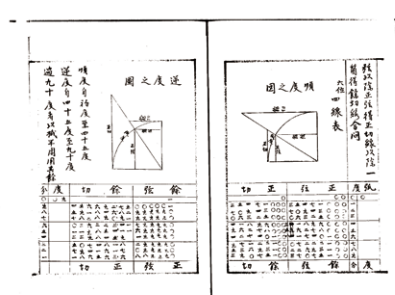
秋田氏は本姓を安藤(安東)とし、中世の東北地方北部から北海道方面にかけて勢力を誇った大名。秋田家史料とは、この秋田家に伝来した典籍・文書類。大名家の文化的側面を示す詠草や肖像画、政治的側面を示す内書、法規類、覚書などから成る。



▶安東愛季(ちかすえ)肖像

和算関係文庫

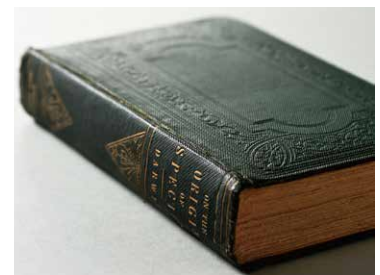
東北帝国大学時代からの本学教授陣により、代々収集されてきた和算の一大コレクション。その他の旧蔵書も追加し現在約2万冊にのぼる。狩野文庫に含まれる和算関係資料と合わせ全国有数の質と量を誇る。



▶「算量地術」

『種の起源』初版

進化論で知られるチャールズ・ダーウィンが自然選択説を提唱した著作の初版。他にも本学は、ダーウィンの研究協力者オーウェンの自筆献辞のある「ビーグル号航海の動物学」を所蔵する。



▶「種の起源」初版(1859)

2024年4月1日